

## 個 別 注 記 表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のないもの…移動平均法による原価法

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

①分譲土地住宅…個別法による原価法

②その他の棚卸資産

(ア) 喫茶関連商品、煙草、雑貨…最終仕入原価法による原価法

(イ) 花苗…移動平均法による原価法

(ウ) 貯蔵品…総平均法による原価法

③未成工事支出金…個別法による原価法

(①と②の棚卸資産の貸借対照表価額は、収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

#### (2) 無形固定資産…定額法

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

なお、平成20年3月31日までに契約した所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

### 3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金…売上債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 工事損失引当金…受注工事に係る将来の損失に備えるため、損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、損失見込額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金…役員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金…従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

#### 4. 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事契約については工事進行基準を適用し、その他の工事契約については、工事完成基準を適用しております。なお、工事進行基準を適用する工事の当事業年度末における進捗度の見積りは、原価比例法によっております。

#### 5. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(表示方法の変更に関する注記)

『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更

『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)により、会社計算規則が改正されたため、繰延税金資産は流動資産又は投資その他の資産に区分する方法からすべて投資その他の資産に表示する方法に変更しております。

(貸借対照表に関する注記)

#### 1. 有形固定資産の減価償却累計額 41,697百万円

#### 2. 関係会社に対する金銭債権・金銭債務

短期金銭債権 2,236百万円

短期金銭債務 143百万円

長期金銭債務 3,593百万円

#### 3. 損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。

損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金のうち、工事損失引当金に対応する額は97百万円であります。

(損益計算書に関する注記)

#### 1. 関係会社との取引高

営業取引による取引高

売上高 14,124百万円

仕入高 616百万円

営業取引以外の取引による取引高 15百万円

#### 2. 工事損失引当金繰入額

売上原価に含まれる工事損失引当金繰入額は、132百万円であります。

#### 3. 減損損失

当社は、原則として地点単位で資産のグルーピングを行っております。

今回、減損損失を計上した資産グループは、収益性の低下により資産の簿価を全額回収できないこととなったため、当該資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失40百万円として特別損失に計上いたしました。

なお、当該資産グループの回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、正味売却価額は不動産鑑定評価額等によっております。

(株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当事業年度の末日における発行済株式の数 普通株式 157,000株
2. 当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成30年6月20日 書面決議	普通株式	800百万円	5,101円	平成30年3月31日	平成30年6月21日

3. 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの  
平成30年度に係る定時株主総会における決議事項として、以下のとおり会社法第319条第1項に基づき書面決議とする予定であります。

株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
普通株式	利益剰余金	534百万円	3,407円	平成31年3月31日	令和元年6月24日

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

ゴルフ会員権評価損	45百万円
未払賞与	157百万円
未払事業税	25百万円
退職給付引当金	143百万円
減損損失	1,150百万円
その他	134百万円
繰延税金資産小計	1,657百万円
評価性引当額	△972百万円
繰延税金資産合計	685百万円

(リースにより使用する固定資産に関する注記)

貸借対照表に計上した固定資産のほか、工事現場の仮設建物については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

(1株当たり情報に関する注記)

1. 1株当たり純資産額 184,031円32銭
2. 1株当たり当期純利益 6,815円55銭

(重要な後発事象に関する注記)

当社は、平成31年4月26日開催の取締役会において、当社を吸収分割承継会社として当社の親会社である中部電力株式会社より不動産活用事業及び寮・社宅の運営管理事業を承継するこ

とを決議し、同日付にて吸収分割契約を締結しました。なお、吸収分割契約の概要は、次のとおりであります。

(1) 結合当事企業の名称等

①相手企業の名称

中部電力株式会社

②取得した事業の内容

中部電力株式会社の不動産活用事業及び寮・社宅の運営管理事業

③企業結合の法的形式

中部電力株式会社を分割会社、当社を承継会社とする吸収分割

④分割期日

令和2年4月1日

⑤取引の目的を含む取引の概要

中部電力株式会社の保有する不動産活用事業及び寮・社宅の運営管理事業を新たな経営資源として、当社に承継することにより、中部電力グループにおける不動産事業の強化・拡大を図ることを目的としたものであります。

(2) 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号)および「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行う予定であります。

(その他の注記)

会社計算規則第98条第2項第1号に基づき、会計監査人設置会社で必要とされる注記事項の一部を省略しております。

(当期純利益金額)

1,070百万円